

## 最低賃金の中長期的な引上げについて

以下の各案は、円卓会議での最低賃金のあり方に関する各委員のご意見を踏まえ、事務局で整理したものである

### (案の1)「生活保護水準」への引上げを目指す考え方

○最低賃金は、労働者の生計費を基準とすべきであり、その点で「生活保護水準」を上回る水準への引上げを目指す考え方

- ・一定期間をかけて、「生活保護水準」への引上げを行う
- ・この場合、生活保護水準には、生活扶助や住宅扶助のほか、勤労控除などがあり、目指すべき水準をどう考えるかという論点がある。

(参考) 現行の最低賃金額 (全国加重平均) 673円 (1時間あたり)

生活保護を考慮 (生活扶助+住宅扶助) 698円 (1時間あたり)

### (案の2)「高卒初任給」への引上げを目指す考え方

○一般的に、常用雇用者として最も賃金が低い初任給の水準を考慮して、高卒初任給の水準への引上げを目指す考え方

- ・一定期間をかけて、高卒初任給の水準への引上げを行う

(参考) 高卒初任給 (18年) ・平均 914円 ・最も低位の分類 720円

### (案の3)「平均賃金の一定割合」への引上げを目指す考え方

○賃金の全体動向を考慮し、最低賃金が平均賃金の「一定割合」となるよう引上げを目指す考え方

- ・一定期間をかけて、平均賃金の一定割合への引上げを行う

(参考) 平均賃金 (18年) 1807円 ・40%=723円 ・50%=904円

## (参考) これまでの会議で出された最低賃金引上げに関する意見

### 1. 労働者の生計費に即した水準とすべきとの意見

- 最低賃金が労働者の生活安定を保障する、最低限の賃金水準を意味するのならば、算定根拠は労働者の生計費に絞るのが筋。事業主の賃金支払能力に配慮して決定するのでは、最低水準以下の生活を労働者に強いることになる。
- 最低賃金引上げによるコスト負担でマイナスの影響を被る企業が出るのであれば、本来、企業努力で解決すべき。影響が甚だしく大きく、企業が倒産するとかいうことであれば、今度の新しい政策の中で解決すべきもの。
- 生活できるかどうかということ考えた上、日本の最低賃金を決めて、それが広く受け取れるようなシステムを考えていかなければならない。

### 2. 生活保護水準との逆転現象を解消すべきとの意見

- 最低賃金を引き上げて、生活保護との逆転現象が起こらないようにしなければならない。その場合、それに耐えられるような施策を政府がする、そこに焦点を合わせた施策を手当することが必要な状況になっている。

### 3. 高卒初任給に準拠した水準とすべきとの意見

- 最賃制度のスタート時、中卒初任給をベースにして設定。その後目安方式に変わったが、30人未満企業の賃上率にほぼ準拠しながら、上げ幅論だけでやってきた。生計費というより、世の中これだけ率が上がったから、それをフォローしようということだけ。ほとんどが高校以上に進む時代になったことについて、フォローできないまま来て、生計費というファクターをほとんど意識していない。それが今の最低賃金の差につながっている。その辺の制度の骨格に関わるルール形成が必要。
- 高卒初任給を準拠の基準にするとか、リビングウェッジ（公契約における最低工賃）などもありうる。

### 4. 平均賃金の一定水準とすべきとの意見

- 日本の最低賃金は、先進国の中でも低いというのが印象。
- 中長期的な引上方針については、ルール、指標が要る。一般労働者の平均賃金の36.5%というのを、例えば50%がよいのか議論したらよい。

### 5. 中小企業の生産性向上を先行させるべきとの意見

- 中小企業の場合、業績が上がるような仕組みを考え、そういう点に注力しないと、最低

賃金のところまでいかない。

大企業と中小企業との企業格差の問題、地域格差、大都市と田舎の賃金格差の問題、この低いところを上げていかないと、日本全体の力は上がって来ない。

中小企業支援策の予算は少なく、予算全体の0.3%。いろいろな支援策を企業にしないと、最低賃金の問題なども、一番下の層は非常にきつい。

- 中小企業全体の底上げを図るのが先決。最低賃金を上げることだけが議論になるのはおかしい。生産性向上を図って、その結果として最低賃金を上げていくべき。

## 6. 最低賃金引上げと中小企業の実産性向上を同時に進めるべきとの意見

- 下請取引適正化を含め国のやるべきことをきっちりやっていただくこと、地方への応援、中小企業への応援ということと、最低賃金の問題を並行して進めていくことは、絶対にやっていただきたい。一方だけを進ませることはあり得ない。
- 中小企業の実産性と取引の適正化、この3つが合わさっている。最低賃金の引上げについても、正面で取り組まねばならない。その一方で、それを吸収するためにも生産性は引き上げていく。しかし、生産性の引上げは時間がかかる。